

ワークショップ 4

「ピロリ除菌後胃癌、未感染胃癌の問題点と研究」

司会 村上 和成（大分大学消化器内科）

布袋屋 修（虎の門病院消化器内科）

ピロリ菌総除菌時代になり、日常診療における胃癌の様相も変貌してきている。すなわち除菌後胃癌は過半数となり、未感染胃癌も以前にまして発見頻度が増えている。除菌後胃癌の形態的特徴、さらに癌表面の低異型度上皮による診断の困難性が報告されている。また、除菌後胃癌発症のリスク因子、発症のバイオマーカーの解明も求められている。一方、未感染胃癌については、印鑑細胞癌、胃底腺型胃癌、ラズベリー様外観腫瘍などの報告が増加してきており、その進行速度や病理診断も議論がある。また、両胃癌の進行癌症例も大きな問題点である。多数の演題の応募を期待する。